

いつの間にか、借りた畑がとても広く、また薪割りの斧も重く感じるようになりました。夫婦二人の生活も、やがて「一人暮らし」に・・・。不安な老後生活を考えがちですが、明るい老後生活を夢見ようと数人で集まり、こんなプレゼン資料を作ってみました。それは、自然豊かな環境に恵まれたこの地だからこそ出来る小さなコミュニティの形成です。

その一部を抜粋すると・・・

- *八ヶ岳南麓の日当たりの良い自然豊かな明るい雑木林の中で、他人から干渉される事も無く、不安や孤独感もない小さな平家に住み、極力物を持たない生活。
- *庭の秘密基地のような小屋で趣味を楽しみ、野菜は小さな畑で自産自消して、料理を楽しむ。
- *いつでも気心の知れた友人とすぐ近くのレストランで食事をしたり、シェアカーやデマンドバスで買い物に行くことも。
- *センターハウスは、入居者の見守りや地元の人たちも自由に出入りできるような窓口。カフェやレンタル食堂、断捨離マーケットも開催する中核施設となっている。

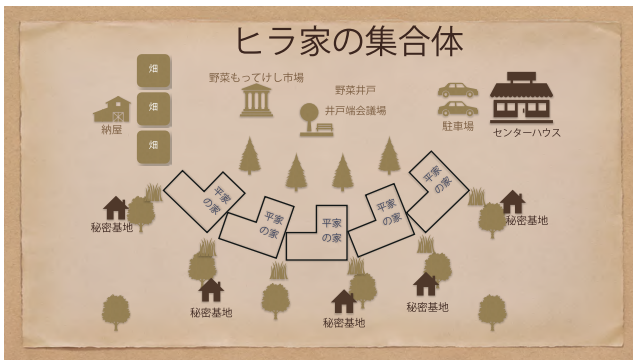


ある地元の地主さんとお会いした時、ちょうど持っていたプレゼン資料をお渡しし、意見を聞きました。

「これからどうしよう・・・」この不安感は、移住者だけではなく地元の人たちも感じていることで、家屋敷を売却し市営住宅に入居した友人もいらっしやるとのこと。そして、このようなコミュニティへの参加は高齢者だけでなく、リモートワークを背景に若者の入居希望や共同体への参画ニーズもあるのではないだろうか。この活動や新たなコミュニティが地元(既存の地域共同体)の活性化につながることを期待でき大いに興味深い、とのご意見を頂きました。

そして最後に、「これから、土地を案内するよ」と言って、レインボーラインからほんの少し北側の5千坪以上の雑木林を見に行きました。先祖伝来の土地で売るわけにはいかないが、借地としては是非この構想に使ってもらいたい、と背中を強く押されました。

ふるさと倶楽部の高齢化が進む中、直近の課題対応の夢物語として始めた「これからどうしようプロジェクト」は、夢物語で終わるのか「これからどうしよう」と悩んでいます。



● イベント報告

☆5/15「山野草を巡る散策会」に参加して

..... (白州町在住)

岡田さんは大泉町の標高1kmの地で湧水の流れる山を切り開き、井戸を掘り、自宅を建設し、さらに大好きな山野草を育てるために丁寧に開墾し、数百の山野草が植えられた立派な庭園を18年かけて造り上げました。「駄楽〜庵」(だら〜ん)と名づけられた庭園にある東屋からは木漏れ日に輝く山野草の群生を見ることが出来、心洗われる至福の時間となりました。

